

海外調査報告
(ギリシャ(参考資料))

平成28年4月15日



一般概況



【ギリシャ】

- 正式名称:ギリシャ共和国 (Hellenic Republic)
- 首都:アテネ (Athens)

【一般事情】

- 面積:13万平方キロメートル(日本の約3分の1)
- 人口:1,099万人
- 言語:ギリシャ語
- 宗教:ギリシャ正教

【ギリシャ国旗】



【ギリシャ国章】



【政治体制・内政】

- 政体:共和制
- 元首:プロコピス・パヴロプロス大統領(2015年3月就任、任期5年)
- 議会:一院制(300議席、任期4年)
- 与党:急進左派連合 (SYRIZA) 及び独立ギリシャ人の連立政権
- 内閣(2015年9月発足、第二次チプラス政権)
 - 首相:アレクシス・チプラス(急進左派連合)
 - 副首相:ヤニス・ドラガサキス(急進左派連合)
 - 財務相:エフクリディス・ツァカロトス(急進左派連合)
- 内政:
 - ・ サマラス前首相(当時)が擁立した大統領候補を議会が否決したことを受け、2014年12月31日に議会解散。2015年1月25日の総選挙の結果、急進左派連合 (SYRIZA) が第1党となり、右派の独立ギリシャ人との連立で政権交代が実現。急進左派連合のチプラス党首が首相に就任。
 - ・ 2015年8月にEU、IMF等と合意したギリシャ支援プログラムの受入れを巡り、同月、チプラス首相は議会を解散。2015年9月20日の総選挙の結果、チプラス首相率いる急進左派連合が145議席を獲得して第一党となり、同首相は再任を果たす。

【経済】

- GDP総額:1,791億ユーロ／2,380億ドル(2014年、IMF)
(日本の約5%)
- 一人あたりGDP:16,291ユーロ／21,648ドル(2014年、IMF)
- 経常収支(対GDP比):0.9%(2014年、IMF)
- 主要産業:サービス業、鉱工業、農林水産業 等
- 貿易(2013年、ギリシャ投資庁)
 - 輸出(実額)276億ユーロ
(主な品目)鉱油、工業用品、食品
(主要相手国)トルコ、イタリア、ドイツ、ブルガリア、キプロス
 - 輸入(実額)468億ユーロ
(主な品目)鉱油、機械類、輸送用機器、化学製品
(主要相手国)ロシア、ドイツ、イタリア、イラク、中国

【二国間関係】

- 対日輸出(実額)119億円
(主な品目)石油・石油製品、綿花、果実及び野菜
- 対日輸入(実額)174億円
(主な品目)機械類、輸送用機器、ゴム製品



経済・財政状況（データ）

（単位：%）

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
実質 GDP 成長率	4.0	3.7	3.2	6.6	5.0	0.9	5.8	3.5	▲ 0.4	▲ 4.4	▲ 5.4	▲ 8.9	▲ 6.6	▲ 3.9	0.8	▲ 2.3
10年物 国債金利	6.1	5.3	5.1	4.3	4.3	3.6	4.1	4.5	4.8	5.2	9.1	15.7	22.5	10.1	6.9	9.9
経常収支 対GDP比	▲ 7.5	▲ 6.9	▲ 6.3	▲ 6.4	▲ 5.6	▲ 7.4	▲ 10.8	▲ 14.0	▲ 14.5	▲ 10.9	▲ 10.1	▲ 9.9	▲ 2.5	0.6	0.9	0.7
失業率	11.4	10.8	10.4	9.8	10.6	10.0	9.0	8.4	7.8	9.6	12.7	17.9	24.4	27.5	26.5	26.8
インフレ率	3.2	3.4	3.6	3.5	2.9	3.5	3.2	2.9	4.2	1.2	4.7	3.3	1.5	▲ 1.2	▲ 1.5	▲ 0.4
PB 対GDP比	3.5	1.9	0.7	▲ 0.7	▲ 2.5	▲ 0.9	▲ 1.6	▲ 2.2	▲ 5.0	▲ 10.3	▲ 5.3	▲ 3.0	▲ 1.4	1.0	▲ 0.0	▲ 0.5
財政収支 対GDP比	▲ 3.6	▲ 4.3	▲ 4.7	▲ 5.5	▲ 7.1	▲ 5.5	▲ 6.1	▲ 6.7	▲ 9.9	▲ 15.3	▲ 11.1	▲ 10.2	▲ 6.4	▲ 2.9	▲ 3.9	▲ 4.2
債務残高 対GDP比	99.5	99.9	98.1	94.1	94.9	98.1	102.9	102.8	108.8	126.2	145.7	171.0	156.5	175.0	177.1	197.0

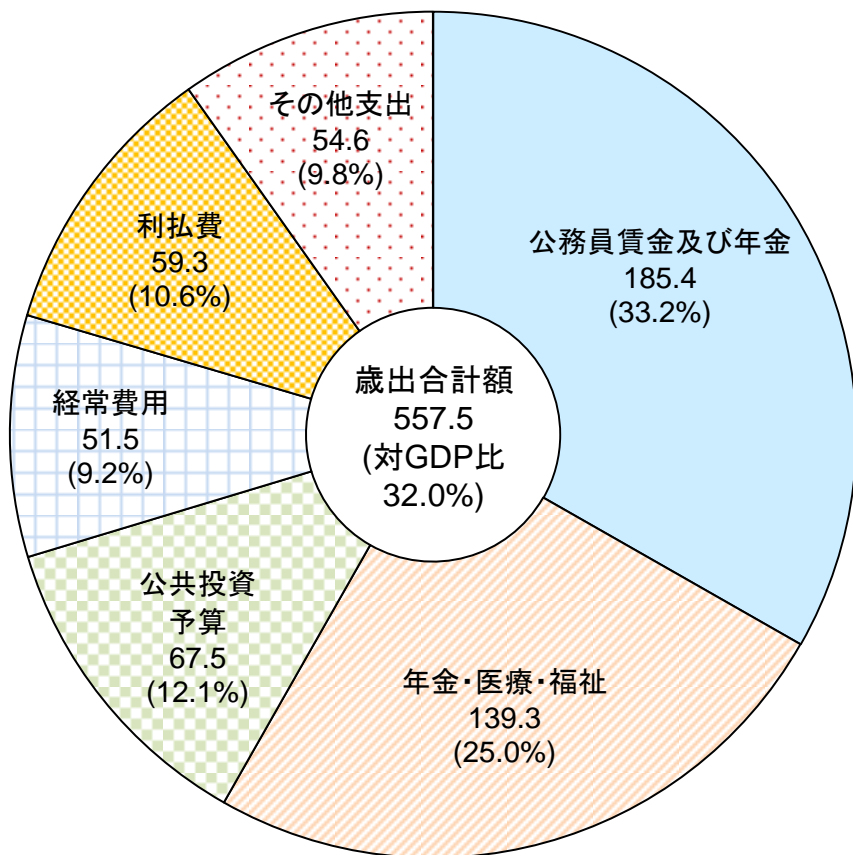
（出典）IMF「World Economic Outlook」。但し、10年物国債金利についてOECD「Economic Outlook 98」。



中央政府の歳出・歳入構成（2016年度予算）

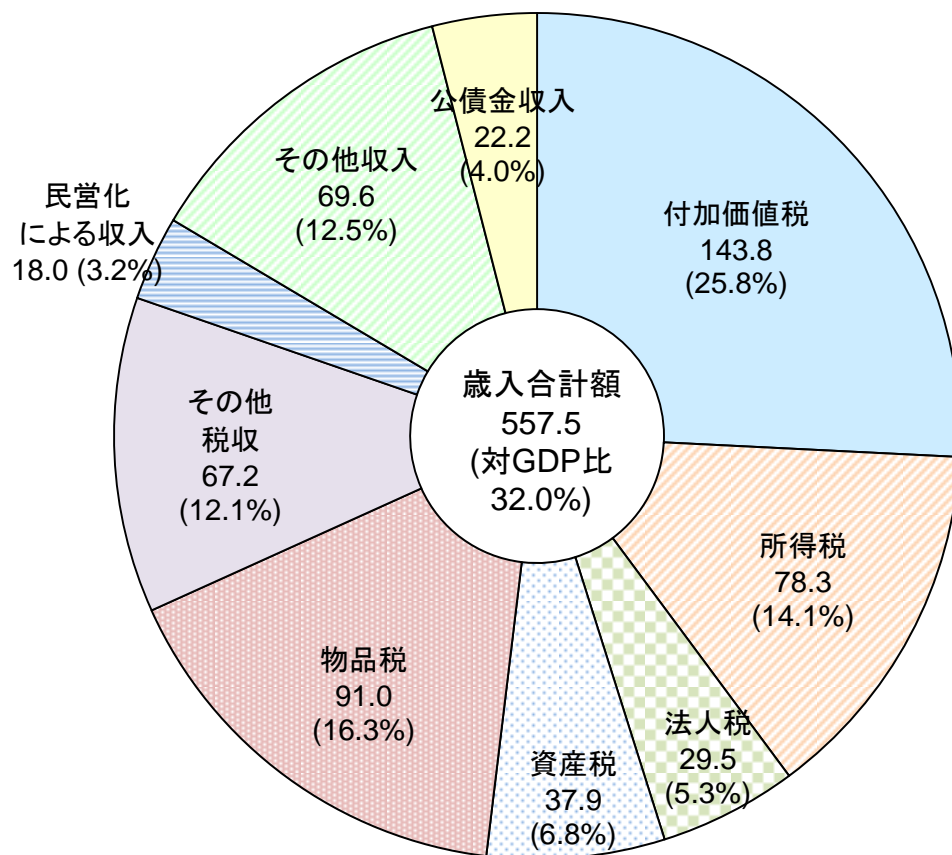
- 歳出に占める公務員人件費の割合が非常に高くなっている。
- 利払費が歳出の1割を占めており、金利の変動の影響を受けやすい歳出構造となっている。

【歳出】



【歳入】

単位：億ユーロ、(%)



(出典) ギリシャ財務省 2016年予算説明資料

(注) 2016年の名目GDPは1744.4億ユーロ(2016年予算説明資料における推計値)。



財政運営を規律するルール

- ギリシャでは、財政協定を受け、国内法において原則として財政収支均衡を義務づけている。
- ギリシャは、金融支援を受けるに当たって、プライマリーバランスを財政健全化目標に据えており、この目標の実現に向けて歳出・歳入両面からなる財政健全化に取り組んでいる。

- 法律 第4063号(2012年)
 - ・ 財政協定で合意した内容を国内で執行するための法律を制定し、その中で財政収支均衡の原則を規定。
- 第三次ギリシャ支援プログラム(2015年8月)
 - ・ プライマリーバランスを財政健全化目標として掲げており、2015年8月に合意された本プログラムでは、2018年のプライマリーバランス対GDP比3.5%黒字化を目標として掲げている。これは、第二次支援時にギリシャに課されていた財政健全化目標と比較すると、達成時期も内容も緩められたものとなっている。

<第2次支援における目標(2012年11月)>

	2012	2013	2014	2015	2016
プライマリーバランス目標	▲1.5%	0.0%	1.5%	3.0%	4.5%



<第3次支援における目標(2015年8月)>

	2015	2016	2017	2018
プライマリーバランス目標	▲0.25%	0.5%	1.75%	3.5%

- ギリシャ財務省へのヒアリングによれば、pay-as-you-goルールといった財政規律を高める財政制度は特段設けられていない。

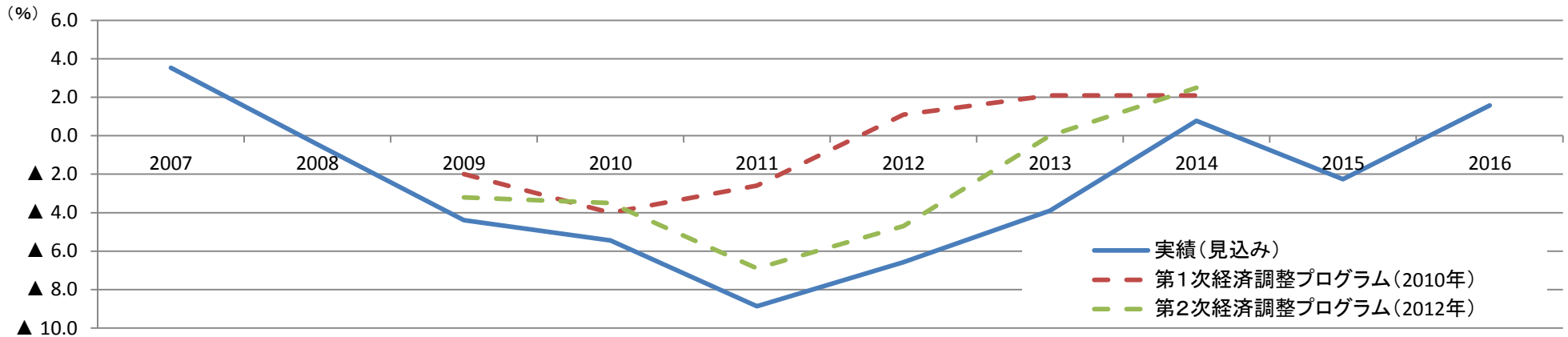


経済状況の見通しと実績及び評価

- 第一次支援プログラムの見通しは、特に2011年以降、実績から大きく乖離。追加的な歳出削減が必要となり、更なる経済状況の悪化をもたらした。
- 他方、第二次支援プログラムについては、見通しに沿って成長率が回復。2015年の政権交代を機に、成長率が大きく落ち込んだ。

経済の見通しと実績

【実質GDP成長率】



(出典) 第一次ギリシャ経済調整プログラム(2010年5月)、第二次ギリシャ経済調整プログラム(2012年3月)。
 なお、ギリシャは統計基準を2014年よりESA1995からESA2010に切り替えており、見通しと実績を単純に比較することはできない。

評価

- ギリシャ財務省へのヒアリングによれば、「毎回、支援プログラムは2年程度で終わり、その後はギリシャ経済は回復していくと思っていたが、実際には見直しの連続であった。公的債権団のGDPの予測が楽観的すぎて計画自体が不確定なものとなっている。」との見解。
- IMFのスタッフレベルの評価として、第一次支援プログラムについて、ベースラインとしていたマクロ経済予測が実績を大きく下回ってしまい、非常に楽観的な予測を行ってしまったことは批判されうる、としている。

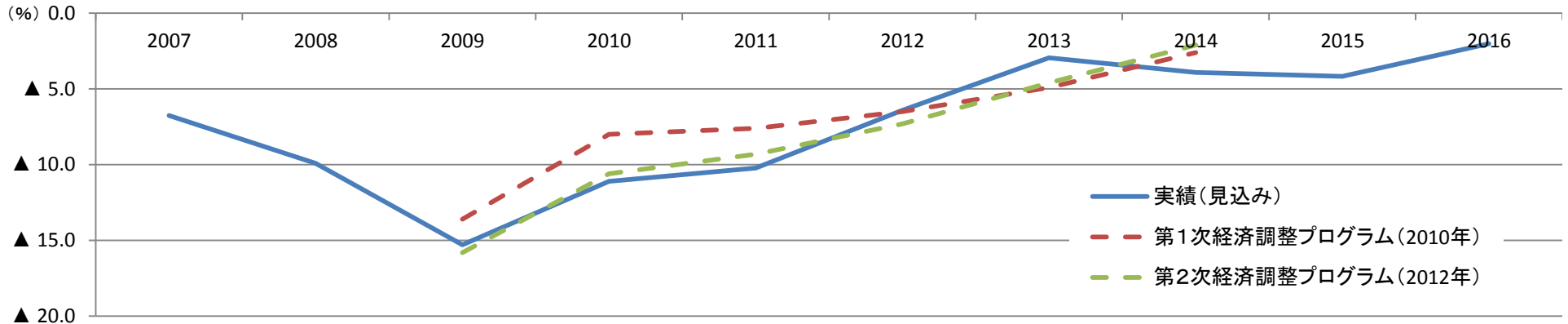


財政状況の見通しと実績及び評価

- 経済見通しと同様、第一次支援プログラムの見通しは、実績よりも大きく収支改善する姿となっていた。
- 他方、第二次支援プログラムの見通しでは、ほぼ実績どおりに収支改善が進んでおり、計画に沿った形で財政健全化に取り組んでいた。

財政の見通しと実績

【財政収支対GDP比】



(出典) 第一次ギリシャ経済調整プログラム(2010年5月)、第二次ギリシャ経済調整プログラム(2012年3月)。
 なお、ギリシャは統計基準を2014年よりESA1995からESA2010に切り替えており、見通しと実績を単純に比較することはできない。

評価

< 第一次支援プログラムの評価 [元社会保障担当大臣(2000~2001年)のヤニチス氏へのヒアリング]>

- 公的債権団によってとられた政策が、非常に短期間に大規模な財政調整を求めるものであり、財政赤字の改善には寄与したが、経済成長の悪化、雇用の減少、歳入の悪化をもたらし、社会経済に大きな影響を与えた。

< 第二次支援プログラムの評価 [IMFのレポート(2014年5月)]>

- 公的債務の動向は、非常に不安定だが持続可能性があり、プログラムが合意した通りに実行されれば、更なる債務再編は不要。他方で、政策や見通しの大きな変更は、財政需要の大幅な増加をもたらした。